

(2) 機械及び施設の効率的な利用

果樹の農業生産の効率化、生産コストの低減を図る上では、樹園地内での収穫・運搬など集出荷に係る作業の効率化を図ることが重要である。特に、傾斜地や園内道の整備が進んでいない樹園地においては、収穫物の運搬において機械から機械への載せ替え等で多大な労力を要している場合もある。

例えば、果樹用の小型ロボットでの収穫物の運搬を前提として、中継地点を設けずに1箇所作業所を集約させるなど、ロボットの導入に併せて作業所の配置や場内運搬、出荷方法等の見直しを検討することが有効である。

[資料8(2)-1 リンゴとブドウの樹園地において小型運搬ロボットの活用をきっかけに作業所を集約した事例(Nagano ロボットテストフィールド)]

○資料8(2)-1 リンゴとブドウの樹園地において小型運搬ロボットの活用をきっかけに作業所を集約した事例(Nagano ロボットテストフィールド)

従来の人による作業体系においては、ほ場の中間地点に中継地点(作業所2)を設けていたが、小型運搬ロボットの導入により、直接作業所1に収穫物を運搬可能となったため、作業所2を廃止。



株式会社イーエムアイ・ラボ